

課題

【国語】人物像や物語の全体像を具体的に想像し、 表現の効果を考えることが苦手

手立て

「どのように描かれているか」という見方・考え方を働かせて交流する
単元例「ファンタジー作品を読んで、おすすめの本を推薦しよう」

具体例

POINT① どのような読む力を付けるのかを考えて言語活動を設定する。

○学習課題を明確にして、学習の見通しをもつ。

- ・これまでの学習を振り返り、読みの視点を確認する。
- ・教師のモデル文を読み、どのように推薦文が書かれているのかを捉え、学びの見通しをもつ。

〈学習計画〉

- ・学習の見通しをもつ。
- ・人物の相互関係を読む。
- ・物語の展開を読む。
- ・表現の効果を読む。
- ・推薦文を書く。
- ・推薦する文章を読んで交流する。
- ・学習のまとめと振り返りをする。

POINT② 友達との交流を通して、暗示性のある表現に気付く。

○読みの課題の根拠となる叙述や描写を基に考えたことを共有する。

- ・読みの交流を通して、複数の場面の叙述や描写を相互に関係付けながら読むことで、全体像を具体的に捉えて暗示性のある表現に気付くようにする。

〈ICTを活用した読みの交流〉

- ・ICTで「全文シート」を提示し、物語の全体像を捉え、自分の読みの根拠となる叙述や描写に線を引く。
- ・ホワイトボード機能を活用して、互いの読みを整理したり関係付けたりしながら話し合う。

POINT③ 学習のまとめと振り返りから読書活動の充実へ結びつける。

○推薦する文章を読んで交流し、学習のまとめと振り返りをする。

- ・これまでの学習をもとに、推薦するための読み方についてまとめる。
- ・この学習を通して、自分がどのような力を身に付けたのかについて振り返る。

〈児童の振り返り例〉

友達と交流したら、自分の気付かなかった登場人物同士の関係が、この物語の面白さにつながっていると気付きました。同じ読み方で他の本もたくさん読みたいです。